

令和6年3月1日

保護者の皆様

林崎小学校長 平野 貴義

令和5年度学校評価アンケートの結果について

学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今年度の結果について次のとおりご報告いたします。この結果は、本校教育の改善と充実を図るために活用させていただきます。なお、児童・保護者アンケートの集計数値は別紙に掲載しておりますのでご覧ください。

I アンケートの集計結果より



1 児童アンケート

(1) 成果（番号は質問番号を示しています。）

- ①「先生は、毎日の授業を分かりやすく教えてくれる。」では、93%以上が肯定的回答をしています。一人一人を大切に、個々のニーズに応じた指導を心がけた成果だと考えます。今後も継続的に授業改善を進めて参ります。
- ⑤「授業中、人の話を集中して聞いています。」では86%以上が、また⑥「思ったり考えたりしたことを友達に伝えることができています。」では昨年度より6%以上高い86%以上が肯定的回答をしています。「話し方聞き方モデル」等の粘り強い取組の成果だと考えます。
- ⑩「タブレットなどを使った学習が好きです。」では86%以上が肯定的回答をしています。GIGAスクール構想の推進に積極的に取り組んだ成果だと考えます。
- ⑰「先生、友達、近所の人に進んであいさつをしている。」では87%以上が肯定的回答でした。高学年のあいさつ運動等の成果が現れてきたと考えます。学校運営協議会の目標としていることから、保護者や地域の方の協力を得ながら、更に取組を進めて参ります。
- ⑱「廊下や階段の右側を静かに一列で歩く。」では、昨年度より約6%高い82%以上が肯定的回答でした。ポジティブ行動支援の取組が着実に浸透しつつありますが、更に児童の主体的な取組等を考えて参ります。
- ㉘「いじめはどんな理由があってもいけない。」は肯定的回答が97%以上と高い割合になっています。日頃の生活指導や人権学習・道徳学習の積み重ねが成果となって現れています。

(2) 課題

- ⑧「工夫した自主学習をしている。」の肯定的回答は約71%となっています。家庭学習の手引き等を工夫したり、よいモデルを紹介したりする等して、児童の主体的な学習が進むよう取組を進めて参ります。
- ㉓「先生は困ったり悩んだりしたときに相談にのってくれる。」の肯定的回答が昨年度より7%下がりました。日頃からきめ細やかに児童に関わることを意識していますが、児童の思いに寄り添えていないこともあるのだと反省させられました。今後の教育活動に生かして参ります。
- ㉔「学校へ行くのが楽しい。」では、肯定的回答が約81%と、目標としていた85%に至りませんでした。㉓の結果も踏まえ、困っている児童のサインに気づくよう、児童との関わりを深めて参ります。

2 保護者アンケート

(1) 成果

- ②「子どもの学力の状況はよく分かっている。」では89%以上、⑩「子どもが粘り強く取り組めるよう、家庭でも応援している。」では90%が肯定的回答となっています。各ご家庭における学校の教育活動へのご理解・ご協力がうかがえます。
- ⑧「子どもがよいことをしたときは積極的にほめている。」では約97%が肯定的回答となっており、高い割合にとってもありがたく感じています。今後、家庭に向けた「ポジティブ行動支援」の啓発等も考えて参ります。
- ⑭「学校行事などに積極的に参加している」の肯定的回答が約88%となり、一昨年度、昨年度と徐々に改善しています。新型コロナウイルス感染症の扱いが変わって以降の行事のあり方について工夫・改善しながら取り組んできた成果だと考えます。今後も状況に応じて、工夫しながら取組を進めて参ります。

(2) 課題

- ⑦「子どもは自分のいいところを理解している。」の肯定的回答が昨年度より3%下がり、約75%となっています。学校としては、ポジティブ行動支援の取組を発展的に継続するとともに、児童が自己有用感を感じられるような教育活動を推進して参ります。
- ⑪「子どもが早寝・早起き・朝ご飯が守れるように気をつけている。」の肯定的回答が昨年度より約7%下がりました。学校からも様々な情報を発信するとともに、機会ある度にご家庭への啓発を続けて参ります。
- ⑮「子どもが携帯やゲームを長時間しないようにルールを決めている。」の肯定的回答が約70%となっています。学校では外部講師を迎えての出前授業等を継続するとともに、保護者の方々も巻き込んでの研修や様々な情報提供、啓発活動を行っていきます。
- ⑰「子どもと社会や将来のことについて、家で話し合っている。」及び⑱「子どもと防災のことについて、家で話し合っている。」の肯定的回答の割合が低くなっています。学校でのキャリア教育や防災学習を各ご家庭で振り返り、広げていくような取組が必要であると考えています。

II 学校関係者評価での意見

- 交通立哨を1年間続けていると、最初の頃はあいさつができなかった児童もしてくれるようになった。学校の中では、高学年のあいさつ運動等であいさつができているようだが、地域の中では不十分である。大人からあいさつをすることの必要性を感じる。大人同士のあいさつも含めて大切なことである。
- 学校では、児童を指導する場合には、共感的にきちんと話を聞き、児童が納得できるような形でやっている。頭ごなしの指導が児童の自尊心を下げてしまう。いけないことはいけないときちんと指導しつつ、褒めて伸ばすことが大切だ。
- いじめに対する考え等、人権学習の成果が素晴らしい。児童同士の些細なトラブルはあるが、頭では理解できている。今後もしっかりと取組を継続してほしい。
- 防災について話し合っていない家庭が依然として多い。学校での防災教育を家庭に広げていくことが必要である。発災時、携帯が使用できない場合の公衆電話の使い方等、いろいろな角度からの防災教育が必要である。また、地域としても町内会に入っていない若い人が増えてきたので新しい防災の仕組みを考えていく必要がある。
- 家庭での話が少ないことが気になる。テレビやスマホ等をばらばらに見ていて共通の話題がない。
- 変化の激しい時代である。周りの大人が意識して、たくましい子どもを育てていかななくてはならない。